

1 文献名
『厚生小学校百周年記念誌』
2 学校名
厚生小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
<p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>当日は土曜日で、厚生小学校では万一を考え二限目で授業を終了し、児童を自宅へ帰した。その後の PTA 総会は、風の音を聞きながら午後 1 時まで行われた。夕刻、風はさらに強まり、あわてて雨戸にくぎ打ちをする家が多かった。</p> <p>日が落ちた頃、経験したことのない強風が荒れ始めた。雨戸がしない、家全体がギシギシと鳴った。瓦が飛び雨戸を打ち、停電となった。</p> <p>台風の猛威も、夜 9 時過ぎから次第に弱まっていった。(P106～107)</p>
<p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>翌日、外に出ると、道路は足の踏み場もない程、看板、板べい、木の枝など様々な物が散乱していた。電柱が大きく傾き、大木までが倒れていた。ほとんどの家の屋根は、大きな爪でひっかかれたかのように瓦がなかった。</p> <p>厚生小学校内の運動場一面にも枝や瓦、板などが散乱し、木造の壁などがはがれていたが、校舎はそのまま、厚生小学校のシンボルであるけやきも大丈夫だった。</p> <p>（伊勢市内では）内宮の森の巨木がことごとく倒れ、宮町のコンクリートの鳥居が倒れた。市内の死者は 9 人、全壊家屋は 500 戸で、災害救助法が発令された。(P106～107)</p>
<p>（3）復旧の様子</p> <p>復興は、人手や資材不足により遅々として進まなかった。(P107)</p>
<p>（4）体験談</p>
<p>（5）教訓など</p>
<p>（6）その他</p>